

(4) 赤潮発生状況調査

予算

運営費交付金

概要

赤潮発生件数は11件で昨年(14件)より少なかった。例年、珪藻類による赤潮が多い傾向にあるが、本年発生した赤潮はすべて珪藻類によるものであった。構成種別発生件数は *Skeletonema* spp.、小型珪藻類が5件で最も多く、*Chaetoceros* spp. が3件の発生で続いた。赤潮の発生による漁業被害の発生はなかった。これらの情報は大阪湾赤潮速報として大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ ※で公表した。

※<https://www.knsk-osaka.jp/suisan/gijutsu/akashio/index.html>

調査方法

1. 調査定点
大阪湾全域 20 定点(浅海定線調査に準じる)、もしくは東部海域 14 定点(水質監視調査に準じる)
2. 調査期間と実施日
2024 年 1~12 月について、貝毒警戒時期である 2 月~5 月、赤潮多発期である 6 月~9 月は概ね週 1 回、それ以外の月は月 2 回
3. 調査項目
水色、透明度、プランクトン細胞密度等
4. 調査船
漁業調査船「おおさか」(19 トン、680 kW×2 基)

調査結果

表 1~3 のとおり。

担当者

辻村裕紀、秋山 諭

表 1 赤潮発生状況調査 発生継続日数別赤潮発生件数結果

発生期間	5日以内	6-10日	11-30日	31日以上	計
発生件数	5	4	2	0	11
うち漁業被害を伴った件数	0	0	0	0	0

表 2 赤潮発生状況調査 月別赤潮発生確認件数結果

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	0	0	1	1	1	2	1	3	3	0	0	0
うち前月より 継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
被害件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち前月より 継続した件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)月をまたがって発生した赤潮はそれぞれの月にカウントした。

表 3 赤潮発生状況調査 赤潮構成種別発生件数結果

No.	赤潮構成種	発生件数(件)
1	<i>Skeletonema</i> spp.	5
	小型珪藻類	5
2	<i>Chaetoceros</i> spp.	3
3	<i>Pseudo-nitzschia</i> spp.	2
4	<i>Leptocylindrus danicus</i>	1
	計	16

(注1)最優占種のプランクトン別に年間を統計して赤潮構成種を発生件数の多い順に記入した。

(注2)複合赤潮の構成種はすべて計数した。